

年度末アンケートの一部紹介

Q.「普段書いている中で、どんなときに、どんなことに困っていますか？」

第1位 アイデアや題材が思い浮かばない (39人)

「アイデアが全然思いつかない。たまにしか思いつかない。」 「作品を書く前の、テーマを決める時にアイデアがなくて困っている。」
「書く前に書く内容についてすごく悩んでしまう。何を書いたら良いのか分からなくなってしまう。」
「思ったより、そのテーマに対する自分の意見や書きたいことが思い浮かばないときに困ってます。」
「やはり机に向かった時に、なにも思い浮かばないと困ります。しかも結構それがある。」 「ネタがない!!」

→「そうした時、どうしていますか？」

とにかく書き出す

「とりあえず何が書き出してみる」 「テーマを組み合わせてみたり、思いつくものをとにかく書き出すなどすることもある」
「質を意識せずにとりあえずアイデアをいっぱい出してみる」 「その時は自分の中で書かなければいけないことを列挙して取捨選択をする。」
「何か、自分がその時書いている物のテーマなどを決めて、そのテーマから連想するワードなどを広げて行く。何かの出来事だった場合、その立場に自分が立った時どう感じるかなど想像力を豊かに働かせて考えることで解決できた。」

他のものからインスピレーションを得る

「困ったときは好きな音楽やメディア、映画やドラマなどの身近な作品からインスピレーションをもらうようにしました。」
「新聞読んでる。」「頑張ってるニュースやsnsから今の流行りや話題を探してそこから広げてみる」 「日記を見返す」
「物語とか詩とかそういうのが思いつかないときはね、ランダム単語メーカー使ってみたり、誰かと会話したり、お空を眺めたりするの。」

気分転換やリラックスをする

「一回休んだり違うことをしてみる。周りを見わたす」 「周りの環境をとにかく見る。」
「そんな時は好きなスポーツの試合を見たり、ゲームをしてリラックスしています。」 「散歩をする」 「音楽を聞くことで解決させている。」

いったん時間を置く

「そうした時は、一旦メモして1日空ける。翌日にみたら、頭がリセットされていてすっきりして、可視化できるようになる。」
「そんな時は、諦めるようにしてます。なにも思い浮かばないのに悩んでも無駄なので、一旦保留して日々暮らしていくなかで何か思いつくの
を待ってから、机に向かってそれを言葉にしています。」 「とりあえず1日置いてもう一回テーマを考えたら湧いてくる。」

友達に聞く

「友達に案を書いたり思いついた時にすぐ書き留めるようにして忘れないようにする。」 「他の人と話してみる、アドバイスをもらう。」
「そういう時には、友達と話して、友達からアドバイスをもらったり、参考にさせてもらったりしている。また、戯曲では、悩んでいる人同士
で、同じテーマを決めて取り組んだことで、モチベーションがあがってスムーズに進められた。」

ジャンルやテーマ・題材を変える

「詩を作ろうとしていたら、短歌などに変えたりする。」 「そういう時は一回そのテーマから離れて違うテーマ違う題材を考えています。」

第2位 じっくりくる語彙や表現が見つからない (22人)

「自分の語彙力のなさ。」 「言葉で表現する時に語彙不足で適切な語彙が出てこないことがある。」 「言語化が難しい」
「自分が書いている時にじっくりくる単語が思いつかなかった時。」 「書きたいことに自分の語彙力が追いついていない。」
「イメージはあるのに上手く文字に書き起こせない。心に残る、洗礼された文章にならない。」
「自分の文章が納得がいけないとき。自分が考えていること、表現したいことと実際の書いた文章のニュアンスがどう頑張っても一致しない、
ちょっとずれたりするとむしゃくしゃする！」
「一つの作品にあまり適していない言葉をどれだけその作品に合うような書き方にすることができるかを考えるのが難しかったです。」
「普段は主に物語を描いているので、自分のイメージに適さない語彙しか思い浮かばない時に行き詰まってしまう。」
「表現のつながりがなかったり、短歌だったら字数が当てはまらなかったときなどが悩んだりする。」
「短歌を書くときに、5音か7音の言葉を探すのが大変だった。考えても分からないときは、辞書などで、類義語を調べたりした。」
「短歌には語数制限があるから、本当に伝えたいことを1単語にするのが難しい。この世にある言葉で自分の伝えたいことが表せられない時が
ある。」 「題名が思いつかない」

「英語では書きたいことがわかっていても、日本語にうまく訳せなくて、グーグルなどで調べても良い訳が出てこなかった時に困っています。」

→「そうした時、どうしていますか？」

「それに似た単語を探るか調べたり、単語以外の表現をする。」 「そういうときは類義語辞典で似た表現を探すようにしている。」
「考えても分からないときは、辞書などで、類義語を調べたりした。」 「そういうときは他の表現の候補をいくつかあげて比較したりする。」
「それらを解決するためには、自分が知っている言葉の中から思い出して書いたり、辞書を用いて考えて書いていきました。」
「大筋だけ書いてみてとにかく編集してみる。」 「絵、図、マップとか別の媒体に書き起こしてみる。」
「素敵だと思う一文だけを集めてみたり、自分の作品を現文の問題みたいに読解してみても軸をはっきりさせていく。」
「有名な作家の作品を読んだり、同年代の人の作品から学ぶ。」 「お母さんに聞く。」
「そんな時は周りの人やGoogleに案を出してもらっている。」 「Google翻訳で色々な言語になんとなく良いと思った言葉を訳してみる」
「そのような時は無理に短歌にこだわらず、詩や普通の文章として書くことにした。」

第3位 構成や物語の展開をどうすればいいのか分からなくなってしまう (15人)

「書きたいことや書く順序が分からなくなる」「ストーリー展開をどうしようかや、登場人物の名前に悩んだり困ることが多いです。」
「よく、長い文章を書いたりすると自分は結局何を言いたいのか、書きたいのか、伝えたいのかが分からなくなってしまうことがあります。」
「短歌や俳句はあまり悩むことはないけれど、詩や説明文、小説などではどのように構成を工夫すればより伝わりやすい作品になるのか悩むことがよくある。」
「物語を書くときに結末をどうするか悩んで、最終的にはぐだぐだ終わってしまうことがあった。」
「設定がこんがらがって書いていくうちにあれどうだったかってなって設定とは違う感じに物語が広がってしまう。」
「オープニングと終わりになって書けばいいかわからない。」 「物語であれば、流れや展開を固めるのが難しい。」
「続きがわからない、思い付かない」 「たまにこの先どうしたいのかわからなくなってなにもアイデアが浮かばなくなる時があります。」
「たまに自分が想像している通りに進めることが難しい。どうすればいいかアイデアにつまることがある。(特に物語など)」
「終わりが見えないこと。」

→「そうした時、どうしていますか？」

「書いている途中でそういう状態に陥ったらアイデアノートにとりあえず大体の流れと思いついているアイデアを書いて整理する。」
「そうした時出来るだけきれいに終わるように、何か話し言葉で終わったり、ナレーションっぽい説明を入れたりしてみた。」
「そんな時は好きなアニメや漫画、小説をもとに考えたりしています。」 「物語だったら、擬音語を使ったり話の途中から始める。」
「その時は何か事件を作り、キャラ同士の交流を深めて解釈を深めることでより良い終わり方を決めている。」
「そんな時は、いったん作品を作るのをやめてアイデアノートを吟味することで解決します。」
「そういうときは先生や友達に相談したり、アイデアノートでまた考え直したりしている。」
「そのような時は、リラックスして目をおいて考えている」 「もう書かない！！書くのをやめてゲームをする！！！」 「一回時間をあける。」
「終わりが見えないときは書きたいシーンを何個か挙げて、一番盛り上がるものを最期に据える。」

推敲が難しい

「第1稿を推敲するとき、どのように直したらいいのか考えるのが難しい。」
「読んでいる人に対して表現が変ではないか、読みづらくないかわからなくなってしまう。」
「よりよい作品を作るためにどうしたらいいかわからないとき、一回時間をあける。」
「書いている途中で自分のアイデアがなんか面白くないと感じる時。」

→「そうした時、どうしていますか？」

「お母さんに読んでもらい、意見をもらう。そうすることで、新しい視点で作品を吟味できるようになる。」
「このような時には、近くの人に一回読んでもらって、客観的に読んでもらうことをしていた。」 「一回時間をあける。」
「その時は、そのまま突っ切って書いているけど、少し質が低くなったりしてしまうから次の稿で結構頑張らないといけない。」

気分が上がらない

「私の気分のコントロールに困っている。一度その文をめんどろととらえるとすごく書きたくなくなる。」
「それを書いた時間が無駄になるから書く気も失せてしまう。その時は違うことをやって気分転換する。」

→「そうした時、どうしていますか？」

「本読んだり自分の想像の世界を広げながらぼけーっとしています。脱力して、いっかい文からはなれて、頭を好きなきとで一杯にします。」
「それを書いた時間が無駄になるから書く気も失せてしまう。その時は違うことをやって気分転換する。」

プロセスが踏めない

「夜寝る時にアイデアを思いついたけど、翌朝に思い出せなくなる。」
「思いついても忘れてしまうし、そのままメモるのも面倒くさいから困っちゃう」
「咄嗟に思いついた案について後日膨らませようと考えているとその時にはこの時何考えていたんだ？となる時があった。」
「プロセスを踏めないことです。思いついたものはすぐに書き出し、書き終えるとそれに満足してしまい、終わってしまいます。」

→「そうした時、どうしていますか？」

「できるだけアイデアノートやほかの紙などを活用しながら、プロセスを踏めるように意識しています。」
「その時はその案をもう一度寝かせている。」 「どうもできなかった。」

台詞に困る

「セリフを考えること。」 「物語文を書くとき人物同士の会話をいかに自然なものに再現できるかについて悩み、よく困りました。」

→「そうした時、どうしていますか？」

「人物像を分析(想像)して、その人物が言いそうなセリフや口調にしてそれっぽさを出す。」

パターンが偏ってしまう

「同じようなパターンになってしまっていることがある」 「分野の偏り」

→「そうした時、どうしていますか？」

「視点を変えてみることです。」 「次の学期に書くものやジャンルを決めておく」

Q.うまく書くためにあなたが意識していることや必要だと思うこと、また、あなたにとって書くことを取り組みやすくしてくれることは何ですか？ 考えられる限りたくさん書いてください。

書きたいものを書きたいときに楽しんで書く

「上手く書こうと思わないこと。気楽に自分の書きたいことを書きたいように表す方がアイデアも出やすいと感じた。」

「書くことを楽しむことと悩むこと。」

「テーマ選びから書き終わるまで自分にブレーキをかけないことです。「こんなことありえないからだめ」「変なこと書かない」など考えず、自分が書きたいと思う文章を書こうと意識しています。」

「書きたいときに書く、ということに大事にしている。特に物語や詩など自由な形態の文章は、書きたい気持ちがなければ良いものはできないし、文章もうまく出てこない、書く気がなくなってくる。とかえって書けなくなってしまうことがある。自分の気持ちに素直になって書くことが必要だと思う。」

「私は、自分が1番書きたい内容を書くようにし、書いていて飽きない、楽しい作品を作るようにしています。そうすることで、より自ら積極的に作品に取り組めるようになっていきます。」

「書くことを楽しむことと悩むこと。」

何を書くかを明確にする

「まずなんの話を書くのか明確にすること。登場人物の肩書き(人間とか鳥とか)やそれらの感情についてイメージしてから、「大体こんな感じ」と決めて、だばーっと書いている。」

「書く目的とか何を伝えたいかを軸に(この軸がブレないようにするのが一番大切だと思う)、構成を工夫したり書きたい場面から派生して好きなものをたくさん付け加えていったりするとい感じになる。」

日頃から書くことを意識する

「常にリュックにアイデアノートを入れておくようにし、アイデアが浮かんだらいつでもメモを取れるようにしています。そうすることで、より幅広いジャンルを書けるようになると思います。」

「日頃から思いついたアイデアや案を、スマホやアイデアノートにメモする。」

「その時々気持ちをいつでも思い出せるようにしっかりアイデアノートに記入しておくことが大切だと思います。」

「タイトル案が思いついた時点でなにかに書く。数日後にそのタイトル案について考えること、思いつくことをとにかく書きまくる。そこから必要だと思う条件について詳しく書いていきどンドン他の例にも手を伸ばす。あとは構成を考えて書くこと。」

「知識として、自分が生活していく上で使えるものをより探すことができると思いました。また、そのために書くには生活の意識を変えて情報をたくさん受け入れるようにしました。」

「すぐに書ける環境。」

読み手を意識する

「逐一読者から見たら今の文章はどのように見えるか、感じられるかを考えることだ。全体の文章を書き終えた後だと、自分の中の作品のイメージが確立して、この文章の意図が明確に頭に沁みついているので、初めて読むように作品を客観視することが出来ないと思う。だから現時点で読んでみて読者がまだ不明だと思う点を分析した後に、次の構成を考えることができたりするので、これを意識することは重要だと思う。」

日にちをあける

「日にちをあけて書くことによって、常に客観的な視点、冷静な状況で途中状況を確認できる。」

「第一稿、第二稿、第三稿とて書く時の日を開ける。そうすることによって、前の稿を書いた日に思いつかなかったことや表現も思いついたりするからです。」

他の例を観察する

「例を見る」

「授業中に配られた戯曲や説明文のプリントをよく観察して、どのような書き方をするのか分かったことを意識して書いた。書き方が分からなかったら観察することが大切だと思う。」

「その中で書きたいイメージだけが先行して実質的な文章のレベルが追いつかないことは多いから、とにかく文章が上手い人の作品を読んだり、基本的な読書が超大事!!!だと思います。」

「いろんな本を読んでインスピレーションを受ける(?)→どうせ自分で想像したものだって他の今までの経験から産み出されてるんだからじゃあ他の本読んでアイデア勉強しようみたいな」

声に出してみる

「声に出して読んでみる」「物語とかではそれが自然か、声に出して言ってみたりすること。」

環境

「通学で電車に乗る時間が長いから、電車の中で車窓からの景色を見ながら、作品のアイデアを考える。」

「自転車-乗っているといい言葉やアイデアが浮かびやすい」「スマホを見えないところ、手に届かないところに置き、集中力をあげる。」

「書くときに、できるだけ落ちついてできる場所でやるということ意識していた。」

その他

「パソコンで作る作品でも、推敲するときは、必ず印刷して紙で見る。紙で見ることで、より深く推敲できている気がする。」

「光景とかを書くならその場所について書くこと」「一日に書く目標を決める」「〆切。期限。大事。」

Q.この2年間でもらったアドバイスやサポートの中で、役に立ったものは何ですか？

まずは素直に、楽しんで書いてみるということ

「もっと素直に書きなよって友達に言われました。そのときはなんか上辺だけの言葉だったが、それ以降は本当の気持ちをかけた。」
「友達からもらった、自分の好きなように書いていいと思うよっていう言葉が印象に残っている。」
「自分が題材が思いつかなかったときに友達からもらった自分が好きなようにかくことというアドバイスが役立ったと思う。」
「友達に適当に書いてみればと言われてとりあえず書き始めたらイメージがなんとなくできてきた」
「「はじめ方、終わり方は人それぞれなんでもいい。」という言葉がとても作品作りにおいて気持ちが楽になり、役に立った！！」
「気に食わない箇所を一度放っておいて続きを書くと、違和感が薄れることもあるとアドバイスをしてくれた。そこで気に入らないと思っても基本的に一度続きを書いてみることを試すことで、最終的に満足のいく物語を書くことができた。」
「楽しんで書くことを大切に」という言葉が役に立った。アイデアに困っている時も、「楽しむということはなんでもいい。自分の好きなものを書く。」というように捉えることができ、書きやすくなった。楽しむことが、何よりも「書くこと」を進めることにつながると実感した。」

アイデアノートの大切さ

「日常のことを記録しておく、というアドバイス。」「アイデアノートをしっかりと取って思い浮かんだことはすぐにメモすること。」
「アイデアをメモしておくべきと聞いていたので、何となくメモっていたけど、それが後からすごく役に立ちました。すごくありがたいです。」
「何かアイデアが浮かんだ時すぐにメモに書くといいというアドバイスが一番役に立った。」

あえて書かないということ

「短歌を書く時に、思ったことをそのまま書かないで遠回しの意味で書くといいことを教えてもらいました。」
「ここ、無くした方がいいんじゃない？です。あえて書かないということで相手に想像させて含みを持たせるとよりイケメンな感じになるとわかりました。」
「語るより見せる。がとても役に立った。」

何が言いたい？ 何を伝えたい？をはっきりと！

「一番役立ったのは何を伝えたいのかをはっきりすることだ。どんなジャンルでも結局何が言いたいのと聞きたくなるような文章ばかりだったのではっきりするけどはっきりしすぎないことを意識した。」
「つなげすぎず、簡潔に1つ1つの文章を書くと読みやすくなるよ！」
「友達からもっと具体的にした方がいいんじゃないというアドバイスをもらい、抽象的な表現を分かりやすく変えることができた。」
「自分の作品に疑問を持つというアドバイスが作品を作るうえですごく役に立っています。」

その他

「PC上では気付かなかった点でも、紙に印刷するとフォントや微妙な字の色の違いなどが作品を書くうえで身に染みてこれからも役に立つと思う。」
「いいよねと見せた短歌に「ええ。嫌だ」と言われたアドバイス？反応？価値観のちがいに気付けた。」
「苦戦していることを誰かが知ってくれているっていうのが良かった」

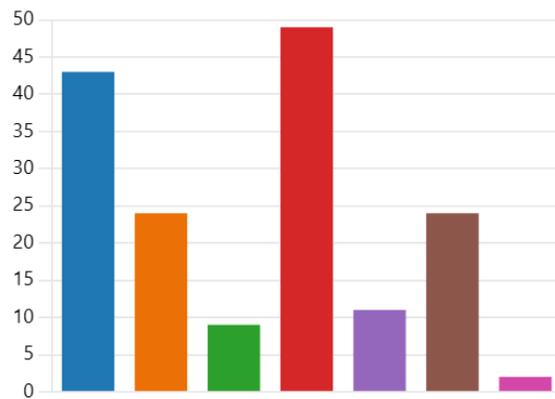
Q. (アイデアノートを活用できている人)「具体的にどんな使い方をしていますか？」

「アイデアがでたらとにかく書く！テキストでもいい。日付を書く。」 「日頃から持ち歩いて日記として使っている」
「思い浮かんだアイデアを忘れないように殴り書きをしておく、次の授業のときにどんな事を自分が考えていたのかが分かり、便利でした」
「生活をしていてこのテーマで作品を書いてみたい！と思った話題を書いてみる。もしかしら使えるかも！と思い、今年やりたいこと、夏休みやりたいことを毎回、毎年書くようにしています。」
「何か面白いことがあったり、思い浮かんだことがあったときに忘れないように書く。アイデアノートだから気楽になんでも書く。たとえそれが書いてるものに繋がらなくても自分のアイデアをとにかく留めておく。また、文じゃなくても絵でも描く。」
「家にいる時でも外にいる時でもメモアプリを使ってぱっと思いついたことを書いて少し膨らませる。そうすることで、後々自分が見てもわかるしそこからもっとイメージが広がる可能性がある。」
「アイデアが浮かんだ時に、携帯のメモ機能でもいいからメモをパッと残すなど、一回思い浮かんだことは忘れないようにメモをしている。パソコンで書いている時も、作品を書き進めている時に、メモスペースをとっておくことで、すぐにメモや構成をしなおせるようにしておいた。」
「思いついたときに書きたいのでラインのメモに書き込んでます。」 「ふと思いついた話題をスマホにメモして実際に書く時に活用する」
「アイデアノートにはアイデアマップを使ったり、電車でふと思いついたことなどを簡単にメモすることで、より多くの案を上手く組み合わせて作品を作ることができるようになりました。」
「自分でとりあえず多くのアイデアを列挙して後日それをまとめてみた後に活用できるものを発展させていく。」
「ひたすら思いついたことや案をメモする。作品の構成などをメモする。」
「思いついたテーマを書き並べ、それぞれ起承転結に分けて考えてく。」
「俳句、短歌、詩なら伝えたいことをもとに使えるようなキーワードをメモしていくことで組み立てやすくする。物語や説明文なら起承転結や構成をはっきりさせ、物語や戯曲なら登場人物の人物像などを物語に出てくる情報以外も詳しく設定する。」
「一つの話は何種類か思いついた話の流れを書く。そして、分岐点を見つけてどれが一番いいのかを見る。」

8. どんなジャンルの文章を書くのが好き or 得意ですか？（複数回答可）

詳細

● 詩	43
● 短歌	24
● 俳句	9
● 物語・小説	49
● 戯曲	11
● ノンフィクション（説明文、意見文、...）	24
● その他	2



詩

「自分の思うままに自由に描けるから。」 「詩は自分が書きたいことを自由な形で書けるから書きやすいし楽しい。」

「普段の生活で思ったこと・感じたことを、工夫して書くのが楽しいから。」 「愚痴を書けるから。自由だから。もうなんでも書ける。」

「詩の形は様々で、短歌などのように文字に縛られず自由に表せるのが楽しいから。」 「他と比べて簡単に、色んな表現ができるから。」

「短い文で物語を表現できて楽しいから。」 「私の心の中を好きなように表現する詩は自由だと感じていたので書くのが比較的好きだった。」

「題材が他のより自由でカッコリとしていなくても大丈夫だと感じて、プレッシャーがそんなにないから書きやすい。」

「限られた文字の中で自由に表現することのできる俳句や短歌とは逆に形や文字数にとらわれずに自由に思いのままに書ける詩は書いてて自分たちの個性が現れたり、好きなように表現ができるから。」

「好きなこと、感じたことをそのままリズムよく書ければ書けるから。」 「詩はリズム感が楽しい！」

「詩には苦手意識があったけど、この間自分が好きだと思える作品を書けたので自信がついた」

「ファンタジーな、アンニュイな詩を書くのがほかの教科では培えない力がつく感じで楽しいから。」

「でんしゃに乗っている時や、お風呂に入っているとき、寝る前など頭が空っぽになる時間が私はわりと多いほうであるため、パッと案が思いつくことが多かった。だから時によるけど詩が個人的に得意だと思う。」

「自分の感じたことや身の回りのことを書き表しやすから。物語や戯曲のように長くないし、短歌のように字数が決まっていたりもしないから自由に書けるとい点が好きだから。」

「時間の移り変わりについて書くのが簡単であり、重要なところだけをピックアップして書くことができる。」

「もともとポエマーだったから」

短歌

「短くて、文字数が決められているから、書きやすい。」 「短歌は直接的でない表現を考えるのが楽しい」

「今学期は短歌をかいてみて、今までは語数縛りがあるから難しいイメージがあったけれど、言い換えや語数に収まるくらいの単語を探すことがとても楽しいということに気づいたから。」

「自由提出があった時は短歌に多分1年生のころとかからしていたので、どのようなことをテーマにしていけばよいのかもわかったからもあると思う。短歌は書き始めて少しまくいかないと思っても一つ一つが短いのもう一回同じテーマのものを使う単語を変えて書くということが出来るからです。」

「パパッと作れるし、フォーマットが決まっているから0から自分で作らなくてもいい感じが何となく丁度いいから」

「短歌は決められた字数だし短歌でしか出来ない表現ができるから。」

「私は短歌を作るのが1番得意です。私は物語文や戯曲などの長い文章を書くのが苦手で、どちらかという短い文章を書く方がメッセージを伝えやすい、相手に伝わりやすいと思ったからです。また、私はどのジャンルよりも短歌を沢山書いてきたため、1番慣れているのかなとも思いました。」

「短歌とか俳句のように限られた字数で自分の思いを表すのは難しいけど、それだけ厳選した言葉になるから、その考える過程が楽しい。」

俳句

「季節の移り変わりの様が好きで、書くのが難しいけれど短くて面倒くさいことがない。」

「俳句は決められた字数の中で表現をするので、どういう表現にするかや単語にするか考えるのが楽しい。」

「自分の思ったことをかける又、情景描写もしやすい」

物語・小説

「物語は自分の想像で書いていけて、すごい自由な感じだから。」 「想像しやすく面白いから」

「物語は自分の好きなように自由にストーリーを変えることができるため、書くのが楽しい。自分の妄想の世界を物語にしている。」

「普段から小説や漫画を読むのが好きなので、その影響で小説は一番書きやすいし自分の想像した世界を表現できるから。」

「なんかわかんないけど面白いから！！！！！！！！」

「物語は規定がなく、自分の発想豊かに表現できるから。また、短くまとめない分、細かく描写できるから。」

「自分自身が物語を読むことが好きだからと、自分の書きたいことを裏設定などで詰め込めるから。」

「アイデアを日常からとってきやすいから。そんなに厳しいルールがないため、好きなことをたくさん書けるから」

「自分だけの世界で書けるので、自分の好きな性格の子をてんこ盛りにしたり自分の好き勝手に表現できるからです。」

「自分の好きなキャラを作ったり、自由に話を作れるから。」 「自分の頭の中の空想の世界を現実にするのが楽しい。 現実逃避が楽しい」

「一番書きやすいし、想像が膨らんで書いていて楽しいから。登場人物の心情を書きながら考えたり共感できる。」

「物語文では登場人物の心情の変化その場面の情景などのものを自分の思うがままに表現して書き入れることができたから。」

「物語は他の形式よりも自由度が高く、自分の好きなように書くことができるため。設定や書き方などが自由に決められるため。」

「地の文を書くことが好きだから。自分の書きたい場面、世界観に適する語彙や表現を探し、使うことを面白く感じる。」

「物語は自分が作った世界で好きに人物を動かせる物語上の事実に見えるから。」

「物語は自分の創造性を活かし、自分の世界を作ることができる楽しさがある。」

「本を読むのが好きで(特に小説)、今までたくさんの小説を読んできて、自然と言葉遣いなどが身につけていたから。」

「自分で自分の考えたことを可視化するのが楽しいし、想像のままにどうやったらより物語やその登場人物に深みとリアリティを持たせられるのか考えるのが楽しいため」

「好きな本のジャンルがフィクションで、自分の頭の中の世界、理想を書くのが楽しいから。」

「物語は自分が一から好きな世界を作ることができるから面白い。」 「自分の好きなものを書ける、ストーリー上だから自由な点が多い」

「現実にはないことも書ける。色々想像できる」 「書きたいことがどんどん増えていくから。」

「物語は、自由に自分で構成し、どの視点で書くのか、どんな内容にするのか、どんな口調で書くのかなど自由度が高いからです。また、普段生活していて、1 番物語のアイデアが浮かんでくるからです。」

戯曲

「物語や戯曲は読み手が読みやすく笑える文章を書くことが好きだからです。」 「お笑いのコントみたいで面白いから。」

「セリフだけで雰囲気などを表すのが難しいけど楽しいからです。また、物語よりはちょっとゆるい？感じがして、たまには少し面白さを足したりするのができるからです。」

「物語ほど細かな説明をしなくてよく、会話に意図や物語を載せることが面白いと思った。舞台が元から好きなためコンダクトすることが興味にあっていたため。」

「国語感があまりなくて、劇を作る感じが新鮮で面白いから。」

ノンフィクション（説明文、意見文、随筆など）

「ノンフィクションの物の方が、現実をそのまま示しそのうえで、自分がその現実についてどう思っているか、何が得られるのかなど、自分の意見をそのまま書くことができ、最も自分の意見がストレートに伝わりやすいジャンルだと思うから。」

「事実を根拠として、自分の考えを述べるのが得意。私は具体的よりは抽象的な表現の方が思い付くと思う。」

「ノンフィクションは自分の実体験だから、書きやすい。」 「説明文は知識を分析し結論に導き出すのが楽しいです。」

「自分の考えを率直にかつ自由に自然に伝えられるから。」 「自分の好きなことについて説明文では語れる」

「ノンフィクションは、自分の意見や考えを率直に実例を交えて書くことしかないので、そこまで複雑だと考えることがなかったからです。」

「ノンフィクションは自分の意見を固めることができ、考えや思いをどんどん書き表せるから。」

「意見文は自分の意見を書くだけだから簡単だと思うからです。また、自分で自由にテーマを決めて自由自在にかけるから」

「ノンフィクションは、興味のある分野について書いたり自分の意見を主張したりできて、考えを広げられるのが楽しい。」

「単語を積み重ねるより文章を書く方が好きだから。400字、800字原稿用紙大好き」

「説明文は最近の物事を自分の考えを用いて書いていくことができたので、楽しかったです。」

「説明文は構成を考えて描くのが面白くてもどうしたら人によりよく伝わるかを考えるのが楽しいから」

「説明文は自分の国語力を上げる練習にもなるから。」「全体のストラクチャーがはっきりしていて、自分でアイデアを想像する必要がないから」

その他（エッセイ）

「自分のこんがらがっている頭の中を可視化できるから、時間がたって読むと自分こんなこと考えてたんだ、ってなって面白いから。」

「自分の書きたいことを好きに表現できるから」